

7910 ここ二，三日，夕風がにわかに涼しい。

ここ二，三日，夕風がにわかに涼しい。やはり九月に入ったんだと思う。日中のカンカン照りが，うそのようである。

ある晩，一せいに虫が鳴いているのに気づく。鳴き始めたのは，もう半月前から知っていたが，これはたいしたものだ。

虫の音というと，淋しいものにきめたがるが，そんなことはまったくない。実にさかんな感じである。生きるよろこびがいっぱいにあふれ，一刻を惜しんで鳴きしきる。

もう寝なければなるまいと思うが，灯りを消したまま縁側を離れられない。

永井龍男『ネクタイの幅』

[許容訳例]

In the past few days, the evening breeze has got much cooler. September has come. It is almost unbelievable that the sun should be so hot in the daytime.

One night, I am conscious of the insects chirping in chorus. I have been aware of them for the past half a month, but this is quite different.

We are apt to consider the song of insects as something melancholy. In fact, though there is not melancholy, but merrily. It brims over with the joy of life, and they chirp steadily as though they grudged the passing time.

It is time I went to bed, but I stay with the light out, unwilling to leave the verandah.

[翻訳例]

In the past few days, the evening breeze has turned suddenly cool; it's really September. The blazing sun of the daytime seems to belong to a different world.

One evening, I am aware of the insects singing together in chorus. It is a good half a month since I noticed they'd started, but this is quite different.

One tends to assume that the song of insects is somehow melancholy, yet one is absolutely wrong. Nothing could be more lovely: their voices brim over with the joy of life, and they sing for all they are worth as though grudging each passing moment.

It is time I went to bed, but though I turn off the light, I cannot bring myself to leave the verandah.

■ここ二，三日，夕風がにわかに涼しい。(7910)

★「ここ二，三日」は in the past few days です。これに only を付けて only in the past few days とすると「ここ二，三日になってやっと」という意味になってしまうので不要です。

★「夕風」は the evening breeze でしょう。wind では風が強すぎます。

★「にわかに涼しい」の「にわかに」は「急に(suddenly)」の意味ですから has turned suddenly cool とすればいいでしょう。

■やはり九月に入ったんだと思う。(7910)

★日本語に近い言い方をすると Yes, I tell myself, September's here.となりますが、英語としては不自然ですし、くどい感じがします。It's really September.か、September has come.が普通でしょう。「やはり・・・と思う」という主観は really とか、現在完了に含まれます。

◆現在完了

現在完了は、もともと主観表現の一つで、たとえば、Where did you go? (どこに行ってたの?) に対して、Where have you been? (いったいどこに行ってたの!) は主観を含ませた表現です。ですから September has come.は「やっぱり九月になったんだ」という主観を含んだ表現ということなのです。ついでながら、I find that September has come.は駄目です。これは「行ってみると九月に入っていた」という感じです。

■日中のカンカン照りが、うそのようである。(7910)

★「日中のカンカン照り」は the blazing sun of the daytime でしょう。

★「うそのようである」に相当する英語表現はありません。「信じられない」に言い換えなければなりません。It is almost unbelievable [scarcely credible] that...なら使えます。It is past belief that...はアメリカでは使われますが、イギリスでは古めかしく、昔の社説などでよく「いやしくも・・・たる者が・・・するとは」という感じで使われ、相当かたい感じです。ましてや be past all belief になるとシェクスピアの台詞みたいです。17世紀以降、英語はイギリスとアメリカで別々に発展して、アメリカには意外に古い形が残っています。often や either に17世紀のイギリス英語の発音が残っていますし、友人のジャン・マケーレブによると、バージニアの一部にはシェクスピア時代の発音が残っていて、研究者が調査・収録に来ていたそうです。ハムレットの“To be, or not to be: that is the question.”を私たちは「トウビー オアノットトウビー ザットイズザクエスチョン」と読んでいますが、シェクスピア当時は「トウビー オアノットトウビー ザットイズザクエススティオン」と読んでいたとのことです。以前、“Song Catcher”というアメリカ映画を観たことがありますが、これはアメリカでスコットランド民謡の原型を収集する話だったと思います。

■ある晩、一せいに虫が鳴いているのに気づく。(7910)

★「ある晩」は one night より one evening でしょう。普通の会話では、「暗くなってから寝るまで」の時間は evening です。

★「一せいに」は in chorus です。強調するなら together in chorus です。

★「虫が鳴く」の「虫」は、「この時間に鳴く虫全体」を指して定冠詞複数で the insects です。「鳴く」は sing でいいでしょう。chirp も使えます。

◆of...と that...

「気づく」ですが、ここでは become [be] aware [conscious] of...を知覚動詞として使うことが重要です。become [be] aware [conscious] that...は駄目です。これは「意識している；常に頭に置いている」という意味になることが多いからです。

■鳴き始めたのは、もう半月前から知っていたが、これはたいしたものだ。(7910)

★「鳴き始めたのは、もう半月前から知っていた」は I have been aware of them for the past half a month [since half a month; since half a month ago] でもいいですが、It was a good half a month since I noticed they'd started. と書くことができます。この good はなくてもいいのですが、入れた方が英語の流れとしては自然になります。

★「これはたいしたものだ」の「これ」とは、すぐ前の「一せいに虫が鳴いていること」をさして、「今までも鳴いていたが、今夜の鳴き方は特別で、一せいに鳴いている」ということで、要するに鳴き方のことを言っているのですが but this is quite different とすれば、「今までとはスケールが違う」という感じが出ると思います。

■虫の音というと、淋しいものにきめたがるが、そんなことはまったくない。(7910)

★「虫の音」は the song of insects です。

★「寂しいものにきめたがる」は one is apt to…あるいは one tends to…も可能ですが、日本語の「きめる」(つまり、証拠も客観性もないのにこういうものだときめる・思い込む)の感じを出すためには、one tends to assume that…がよいと思われます。なお、論理的になりますが、もちろん、consider A as B も使えます。

★「淋しいもの」の「淋しい」は melancholy でしょう。melancholic は少し古い感じです。「もの」は consider を使うなら something melancholy ですが、assume that…を使うなら somehow melancholy です。

★「そんなことはまったくない」は日本語に忠実に変換すると yet one is quite wrong ですが、quite は前にも使っているのですが、absolutely がいいでしょう。

■実にさかんな感じである。(7910)

★ここは Nothing could be more…にすると、日本語の感じがよく出るとされます。

★「さかんな」は lively ですが、すぐ前の melancholy の対照として merrily でもいいです。

■生きるよろこびがいっぱいにあふれ、一刻を惜しんで鳴きしきる。(7910)

★「生きるよろこび」は the joy of life でしょう。

★「生きるよろこびがいっぱいにあふれている」は「その鳴き声には」を加えないと英語になりません。「その鳴き声」は their voices です。

★「いっぱいにあふれる」は「容器から盛りこぼれる」のイメージで brim over (with ~) がいいでしょう。

●[れ(連用形), …] は「順次」で and です。

★「一刻を惜しんで」は「まるで一刻も惜しむように」ということですから as though grudging each passing moment あるいは as though they grudged the passing time など。なお、辞典には grudge the time (時を惜しむ) という成句が出ていますが、これは、たとえば、I grudged the time it takes to get the office. のように、「それに費やす時間がもったいない」ということです。ですから、ここでは使えません。では、grudge time かどうか。使えますが、ものたりません。

★「一刻を惜しんで鳴きしきる」は「一生懸命に鳴く」というニュアンスが感じられるので

they sing continuously ではなく they sing for all they are worth (懸命に) がいいです。この phrase は、たとえば、He ran for all he was worth. (彼は全速力で走った) のように使います。なお、steadily も使えます。

#### ◆「強意の do」

「鳴きしきる」に「強意の do」を使って they do sing…としても間違いではないのですが、文学的で古めかしすぎます。このような do は、現在は、たとえば、they do sing, but… (鳴くことは鳴くんだけど…) のような場合以外には使われません。

■もう寝なければなるまいと思うが、灯りを消したまま縁側を離れられない。(7910)

★「もう寝なければなるまいと思う」は、日本語に忠実に変換すると I know I should go to bed, but… ですが、It is time I went to bed, but… で十分です。なお、「…と思う」に、ここで I think… は使えません。「よくわからないけど…じゃないかなあ」という感じなら使ってもいいのですが、ここの「…と思う」は「…とわかっている」という意味ですから。

★「灯りを消す」は turn off the light ですが、「灯りを消したまま」は the light is out → with the light out です。

#### ◆can't [cannot]の使い方

「離れられない」はそのまま訳すと can't leave [go away from]… ですが、can't [cannot] は「腰が痛いとか、足がしびれたとか、電気が消えているからとか、誰かが困るからとか、何か具体的な支障がある・何か具体的な理由があって出来ない」という情報を含んだ表現です。したがって、ここで can't [cannot] は、「もう寝なければならぬとわかっているのだけれど、虫の音が心を強く打つので」という具体的理由を込めて I can't bring myself to leave… とすれば使うことができますが、ここでは「離れる気になれない」という気持ちを言っていると解釈すると I am unwilling to leave… とか、I am loath to leave… とかにすることもできます。

#### ●「主動詞+句」の連結構造 (灯りを消したまま離れられない)

「灯りを消したまま離れられない」の「灯りを消したまま」は with the light out となりますが、これは adverbial phrase なので、主動詞の「離れられない」(I can't leave… [go away from…]) との「同時性」を表すことになります。したがって、I can't leave… with the light out とすると、「灯りを消したままで (は) …を離れることはできない」という意味になってしまいます。したがって、ここでは though I turned off the light, I can't leave… とするか、あるいは、「…したまま…する」は {単位情報} が二つ連結しているので、「主動詞+句」の構造にして、I stay with the light out, unwilling to leave… ということもできます。

★「縁側」は欧米の家屋にはありません。ここでは家屋の一部であるが部屋の中ではないということがわかればよいので、類似した空間として the verandah とします。